

会員・ボランティア 福島隆司さん & アフガニスタン出身 ナーディリーさん

2月中旬、アフガニスタンから元宮崎大学の留学生であるナーディリーさんのご家族が、タリバンの侵攻を受け、アフガニスタンから宮崎市に避難して来られました。今回のニュースレターでは、当協会の会員・ボランティアである福島さんとそのご友人であるナーディリーさん、奥様のナヒードさんにお話を伺いました。



■国際交流を始めたきっかけは何ですか？

福島さん 30年以上前、アメリカのバージニアビーチ市と宮崎市がまだ姉妹都市になっていなかった頃、バージニアビーチ市から空手少年の使節団が来ました。その時に、知り合いを通じてホストファミリーボランティアの声がかかり、ティミーくんという小学生を受け入れたことがきっかけでした。その後宮崎市国際交流協会が設立され、ホストファミリーボランティアとして登録しました。宮崎公立大学のホストファミリーボランティアの会長を務めたこともあります。今まで受け入れた方の出身国は約30程です。ホームステイ受入をした人達の国に訪ねていったこともあります。ここまでできたのも、妻の協力があつたからだと思います。

■お二人の出会いを教えてください

ナーディリーさん 2012年の11月、JICA Peace Projectの第2期生として来日し、宮崎大学の修士課程に留学しました。私の2年間の留學生活での目標は、研究と日本という国について学ぶことでした。その二つ目の目標を達せいすることができたのは、福島お父さんのおかげです。来日数か月後、宮崎市国際交流協会から、宮崎市民プラザにて開催するインタナショナル・フェスティバルでアフガニスタンについてプレゼンテーションをしないか、と声がかかりました。そのプレゼンテーションが終わった後に、1人近寄って私に声をかけてくれたのが福島お父さんでした。アフガニスタンについて色々質問をしてくれました。

福島さん 私にとって、アフガニスタン、また中東出身の人に会うのは初めてでした。お茶を飲みながら色々お話をした後に、お互いの連絡先を交換し、それから週末に我が家に招待したり、魚釣りに行ったりしました。ナーディリーくん、覚えてるかな？

ナーディリーさん 本当に色々なところに連れて行ってもらいました。観光名所も公園も。今名前を思い出せませんが……。私がアフガニスタンに帰国する際は、福島お

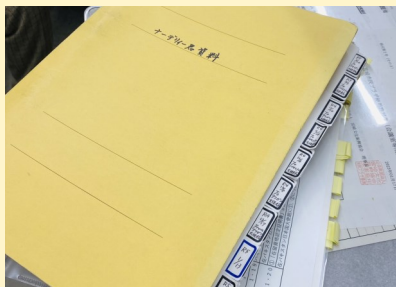
父さんが撮りためていた写真を全部CDに入れてくれたんです。嬉しかったです。それは、今回日本に避難する時にもしっかり持ってきました。



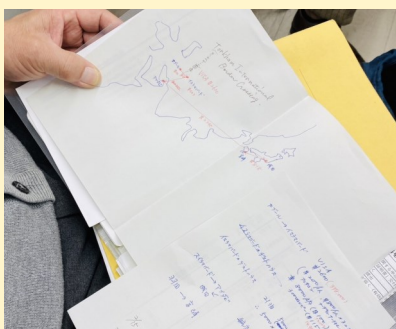
■タリバン侵攻後の2人について教えてください

福島さん 今までたくさんの人と国際交流の活動を通して知り合いになったのですが、不思議とナーディリーくんとはしっかり繋がっていました。自分がガラケーからスマホになった後は、アフガニスタンにいるナーディリーくんとFacebookのメッセージ機能を通して連絡を取り合っていたのですが、タリバンがアフガニスタンを制圧した2021年の夏、7月26日に、突然ナーディリーくんが「ここには書けないから、PCのメールアドレスを教えてください」というメッセージが来たんです。ナーディリーさんから、アフガニスタンを出国して、日本に行きたいから助けてほしいとのメールがきました。Facebookのメッセージ機能では、タリバンに読まれてしまう可能性があるから、メールでやり取りをしようということでした。その後、1年半にわたり、外務省、法務省、出入国管理局、イランの日本大使館、パキスタンの日本大使館、宮崎大学、そしてナーディリーさんを雇用してくれそうな会社・団体と掛け合いました。メールや資料は、全部ファイリングして、特にアフガニスタンを出国してから日本に入国するまでのメールは、きちんと情報を整理して、ナーディリーくんに伝えることがダブらないように気を付けました。

(次ページへ続く)



ついに、2022年11月、ナーディリーさん家族が日本へ入国できるビザが発給されました。当初、イランのテヘランの日本大使館に行って入国するためのビザを発給してもらおう予定だったのですが、イランの治安が悪化したため、新たにパキスタンルートで入国する計画を練り直しました。



ナーディリーさん カブールから、パキスタン国境の町まで、車2台で行きました。1台に私たち家族が乗り、もう1台にスーツケース4つを乗せました。スーツケースの中身はほぼ全部洋服です。以前日本に留学していた時に、日本ではアフガニスタンと比べて洋服の値段が4~5倍することに気が付きました。だから、今回は洋服だけはたくさん持ってきたんです。今来ている洋服も、全部アフガニスタンから持って来たものです。

ナヒードさん 今赤ちゃんが着ているジャンパーも、アフガニスタンで100円くらいで買いました。でも、赤ちゃんが履いている靴下は日本で500円でした。(笑)

福島さん 宮崎空港で再会した時に、荷物が多いのでびっくりしました。大きな車で行って良かったと思いました(笑)

■最後にお二人から一言ずつお願いします。

ナーディリーさん こんな親切なことを、アフガニスタン人である私、外国の人にしてくれるなんて。福島さんに心の底から感謝します。本当に、すべて福島お父さんのおかげです。

福島さん ウクライナ避難民とアフガニスタンからの避難民の扱い方が違います。実体験としてそう感じました。同じ命なのに、どうしても日本に入国するアフガニスタンの

人の方が、もっと危険にさらされているように思えます。国外に逃れようとして、日本に入国するそのハードルが物凄く高いなと思います。法律で、これは仕方がないことであるけれども、今回、日本に入国できる在留資格認定証明書が発給された後、3か月以内に在外日本領事館に行くことができなかったため、再度認定証明書を取り直しました。また以前は日本から在留資格認定証明書の原本をPDFで送ったものを在外日本領事館に提出をしてもOKだったんだけど、去年の11月からは原本でないとダメということになりました。そこで、急遽、ナーディリーさんが滞在していたパキスタンのイスラマバードに原本を郵送して、それをもって在イスラマバード日本領事館に申請をして、ようやくビザが発給されました。計21日間パキスタンに滞在の、最後の最後まで気が抜けませんでした。

現在、ナーディリーさんとナヒードさんは、
就職先を探しています。
お二人とも英語が堪能です。
もし、サポートをご希望の方は、
宮崎市国際交流協会までご連絡ください。

